

Title	人類學研究(小金井良精氏著, 大岡山書店發行)
Sub Title	
Author	移川, 子之藏(Utsurikawa, Nenzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.2 (1926. 5) ,p.147(301)- 147(301)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260500-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

書評

人類學研究(小金井良精氏著) 大岡山書店發行

小金井博士の著「人類學研究」は、各新聞紙上、各専門學者によつて、大分詳しく紹介されたが、博士の唯一の邦文の著書であるところの本書は、いかに多く紹介されても、猶盡くる所なき名著である。

博士は誰も知ることなく、日本醫學界の耆宿であつて、解剖學の權威であるが、まづ同時に世界に於て最も大なる人類學者の一人である。然も博士は、齡古稀に達せられんとする今日なほ、一年のうち三百六十四日は、大學の研究室に立籠つて、不斷の研鑽に没頭せらるゝといふ、本邦稀に見るの篤學者である。

一體解剖學と人類學(人體人類學)とは、密接なる關係を持つてゐる。前者は總ての人類に當て嵌まる一般理想化の人體を取扱ふに反し、後者は各人體の相異點に重きを置き、人體體質の比較を主眼とする所は其の生命を持つてゐる。

人類學は可なり廣汎なる範圍に亘るのであるから、多くの部門を抱擁するは勿論である。肉體上より觀たる人、生物學的考察の對象たる人、これが所謂自然界の羈絆、支配を受けつゝある人である。換言すれば、自然科學の見地よりせる人の研究が人體人類學の主として交渉を持つ領域であつて、人類學の一半を成すのである。

人は一體と共に心がある。されば、人類學の他の一半は、此の「心の人」を主として、研究の目的とするのである。心の働きに依つて、人は能く自然の羈絆を脱し、否、自然を支配し、征服するに至る。心が如何にして發達し來つたか、其の徑路を辿り、究明に つとむる人文學、史前考古學、又は風土氣候に應じて如何に心が働いて行か、さういふ種々なる生活様式等を考究する人類誌學等、凡そ人文科學の立場より觀たる人類の研究がされて、かくして自然人文の兩方面を通じて、人類學の全斑を窺ひ得る事になるのである。

博士のこの著は、言ふ迄も無く、其の人體人類學方面を取扱つた研究論文が主である。そして、これは過去殆んど半世紀に亘つて發表せられたるものであるが、世界に於て著名なる多くの研究發表を含んでゐる。即ち日本石器時代住民及びアイヌに關する研究論文がこれである。日本石器時代住民はヨーロッパなりといふ説を排して、アイヌ説を提唱せる博士の實證的立論は、石器時代住民、アイヌに關する科學的研究の最初のものであつた。これは眞に年來の人類學研究上永遠に没すべからざる尊き貢獻たるを疑はない。

學者の著には、往々、餘りに専門的で、一般讀者に難解の虞れあるものもあるが、博士のこの著は極めて簡明直截であるから其の憂がない。吾人は、此等色々の意味に於て、此の著を推奨したいのである。尙本終りには、喜美子夫人の筆記になれる「北海道めぐり」が附されてある。是れ又アイヌ研究の旅行記である。

(移川子之藏)